opusdei.org

## 年間第10週日曜 日・A年 79 希望の 徳

一旅人のための徳。その礎。

一 妨害や困難、悲しみなどの 最中における希望。 一 聖性 の望みを度々更新する。

2024/04/28

年間第10週日曜日・A年

7 9 希望の徳

一 旅人のための徳。その礎。

- 一 妨害や困難、悲しみなどの最中に おける希望。
- 聖性の望みを度々更新する。
- 79. 1 旅人の徳。その根拠

キリスト教的修徳において、人間の 一生は、神を終着点とする旅として 描かれています。私たちは皆、最終 的な目的地である神に向かって歩み たいと望む旅人です。それ故、目の 前にある困難な道をしっかりとした 足どりで歩みたいと望むならば、希 望の徳を〈蓄えて〉おかなければな りません<sup>1</sup>。 もし、旅行者が目的地 にたどりつく希望を失うなら、その 人は旅を続けないでしょう。その道 を進み続けるのはひとえに、いつの 日か目的地に着くという信頼がある からです。大急ぎで真っ直ぐに、聖 性に向かって、神に向かって、進み たいと思います。

人間の生活で、人が目的を定める 時、それをやり遂げる希望は、身体 的健康、鍛錬、その人自身の経験に 基づいています。話し、行うことは すべて、必要なら、最終的には自ら の弱さそのものから力を引き出すと いう、確固たる意志の問題になりま す。私たちの存在の超自然的目的に 到達するために、私たちは自分の力 に頼らず、全能である神の力に頼り ます。神は、私たちを倒れさせない 忠実な友です。神の善と憐れみは、 頻繁に、朝の雲やまもなく消える露 のような人間の憐れみや善とは違い ます<sup>2</sup>。

超自然的な希望の徳のお陰で、キリスト者は、最終的な目的地に到達することが確信できます。それは、すでにこの世の洗礼に始まり、来世では永遠に続きます。目的地は、普通の旅のように一時的な目的でも、他の目的に向かうための出発点でもありません。この希望の徳をとおし

て、神が、ご自分が愛する人々に約 束された永遠の生命に、目的を成し遂 げるために必要な手段と神の全能の 助けという支えを得て、私たちは希 望しあこがれるのです<sup>3</sup>。 困難が大 きいほど、また、私たちが弱いほ ど、神への信頼はさらに強いもので なければなりません。その助けは もっと大きくなるからです。神が私 たちの近くにおられることがますま す明らかになるでしょう。ミサの第 2朗読⁴で、聖パウロは、アブラハム が約束されていたように多くの民族 の父になると言われた時、彼は希望 するすべもなかったのに、なおも望 みを抱いて信じたことを思い出させ ています。ヨハネ・パウロ一世はこ う評しています。「あなたは言うで しょう。『どうしてこういうことが 起きるのでしょうか』。それは、3 つの真理に固く結びついいるからで す。つまり、神は全能である。神は 私を非常に愛しておられる。神はそ の約束に忠実である。私に信頼を持

たせてくださるのは、慈しみの神ご自身です。自分が孤独ではないことや、役に立たず見捨てられたものではないばかりか、むしろいつの日か天国で終わる救いの運命にあることを私にわからせてくださるその信頼です」 5。

アブラハムは自分が高齢であること と妻の不妊にもかかわらず、躊躇し ませんでした。それどころか、神の 力と憐れみにしっかりと信頼し、神は ご自分が約束されることは実現され ると納得していました。「私たちの 罪のために引き渡され、私たちの正 当化のために再びよみがえられたキ リストを信頼しようとはしないので すか」。 神から受けた呼びかけに一 致して生きるのを妨げようとする、 私たちが出合う障害に対処するの に、神が私たちを見捨てられること があるでしょうか? 神はいろいろな 方法で手を差し伸べられます。普通 は毎日の祈りにおいて、自分に定め

た生活プランを実行することにおい て、秘跡において、特別な霊的指導 の忠告において、手を差し伸べられ ます。主は、この世の旅で、私たち を決して放っておかないでしょう。 旅の中で、私たちは、信仰に溢れる こともあれば弱さも頻繁に経験しま す。聖人になる希望、神が私たち一 人ひとりに期待することを忠実に行 う希望は、神が差し出してくださる 手を受け取るかどうかにかかってい ます。この徳は、私たちの価値、生 活の個人的な状況、また、困難がな いことに基を置くのではなく、神の み旨に - 私たちが目的地に到達す べきだという神のみ旨に - 常に考 えられるどんな状況においても必要 となるはずの恩恵と助けを、すべて 与えてくださるその神のみ旨に基を 置いています。

「『死の陰の谷を行くときも、わた しは災いを恐れない』。私の惨めさ にも敵の誘惑にも心配する必要はな い。『あなたがわたしと共にいてくださる』」 $^6$ 。

79. 2 失敗、障害、苦しみにもか かわらない希望

今日のミサの福音<sup>7</sup>は、神は神を必 要としている人々にどんなに近いか ということを示しています。神は、 完全な人々を心に留めるだけでな く、癒し、赦し、救うために来られ ました。神は何よりも霊魂の病を癒 す神聖な医者です。健康な人には医 者はいらない、しかし、病人には必 要である。徴税人や罪人と食事をす ることを批判する人々にこう言われ ました。霊魂のことがうまくいかな いとき、健康を損なったとき、私た ちは決して良好ではありませんが、 イエスはいつも以上にもっと多くの 世話と助けをお与えになる心づもり をしておられます。病気の人をお見 捨てになりませんし、私たちをお見 捨てにはなりません。誰も助からな

いものと諦めておられません。私た ちに欠点があるからといって放って おかれることもなさいません。しか し神は、私たちを聖化するために招 かれ、私たちのために必要な恩恵を お与えになる心づもりをしておられ ますから、その欠点は改善すること ができますし、しなければならない ものです。どんな病気でも治すこと ができる医者の治療を受ける事がで きるのは、病人だけです。受けるの を断れば病気を治すことはできませ ん。弟子一人ひとり、つまり私たち を救いたいというキリストのご意志 自体が、神ご自身が私たちに願われ るものに到達するという固い約束を 意味すると言えます。

希望の徳は、この生活の困難が深い 意味を持っていることを、私たちに わからせてくれます。それらは偶然 に、または、盲目的な運命によって 起きるのではありません。そうでは なく、その状況からもっと素晴らし い善を引き出すために、神が意図されたり、少なくとも許されたりするのです。困難のお陰で、 私たちは神への信頼を強め、次に神の子の自覚を強め、健康とこの多のです。を離脱ができ、多のすべて良いとは限らない私たちのようにであるが清められ、私たちの罪とするがでの人々の罪の償いをするようになります。

り大きな善を私たちにお望みなので す。私たちが強い信仰を持って信 じ、希望をもう一度奮い起こさなけ ればならないのはそのような時で す。というのは、人間的にみれば失 敗、あるいは、大きな不幸を、宝で あるとみなすよう教えてくれるのは この徳だけですから。聖櫃の傍に 行って、主に神が望まれることをす べて私は望みます、とゆっくりと申 し上げなければならない時です。聖 テレジアはこう記しています。「何 が私たちのために良いか知っておら れる主の支配に、自分自身を無条件 に与えることを望まないのは、私た ちの最大の誤りです| <sup>8</sup>。「イエス よ、御身のお望みになることなら、 私もそれを愛します|<sup>9</sup>。あなたが お許しになることは何でも、どんな 制限や条件もおくことなくあなたの 助けによって、最良のものとして受 け入れます。あなたが傍にいてくだ されば、私はいつもすべてのことに 対してあなたに感謝します。

79.3 聖人になる望みを、度々、 心に呼び起こす必要があります

向上していないと思われ、身体的、精神的に困難な時も、神は万事のと記しているが強ない。 清神のように働かれる」。 一義、悲にしていまいまからはない目的などのはないまかない。 はないまないはないないでは、ないまないでは、ないでは、では、ででは、ないでは、もるでするです。 ない弱さでされていまい。 が必ずでは、ないです。 があるです。 があるです。

自分の内的生活の状態を前にして、 特に内的生活に進歩がみられない 時、欠点がなかなか無くならないと 思われる時、いつも同じような失敗 をすると思われる時は、希望の徳を 頻繁に実行しなければなりません。 その時、私たちには聖性はただの幻 想であり、自分たちからは非常に遠 いものに見えるかもしれません。そ

のような時、十字架の聖ヨハネの教 えを心にしっかりと留めなければな りません。「天国の望みをもつ霊魂 は、望む事すべてを成し遂げる」1 1。神的な善を受けない人たちが確 かにいます。全く望んでいないから です。彼らの視野はあまりにも人間 的で狭いので、私たちが受ける価値 が全くないにもかかわらず、神が私 たちにお与えくださる善の素晴らし さを一瞥さえしないからです。ま た、この高徳な著者は続けてこう言 います。「愛の追求を獲得するため に私は出かけました。飛び立つ希望 で心は満ちています。高く舞い上が りどんどん高く舞い上がり、ついに 獲物に届きました」 12。私たちの希 望は神だけにあるべきです。それ は、すべてを包み込み、神が望まれ る子どものようであるべきです。希 望に生きるのにしっかり心を入れて いけば、私たちは神からすべてのも のを得るでしょう。私たちの一生の 最終的な目的である聖性が、はるか

彼方にあると思われる時でも、神に 近づくための戦いを緩めようとしな いでしょう。それどころか私たちは 燃えるような希望を持ち、義務を果 たそうとするでしょう。霊的指導で 受けている忠告と良心の糾明、黙想 会の決心を実行に移すよう努力する でしょう。落胆に対して毅然と戦う でしょう。与えられた時間に、欠点 に対して感じる痛み - 多少、重要 な前戦で - と再び始めたいという 新たな望みしか私たちには主に捧げ ることはできないかもしれません。 しかし、その時こそ、この捧げもの は神を非常に喜ばせる謙遜な捧げも のになるでしょう。

希望は私たちを励まし、快活に、忍耐強く、倦むことなく再び始めるよう力をくれるでしょう。希望があるので、主と私たちの希望である聖母の助けによって、私たちは必ず勝利を獲得できると確信できます。主は、私たちが勝利を得ることができ

るためのすべての手段を、私たちの 手の届くところに置いておられます から。

- <sup>1</sup> パウロ6世, Address, 9 December 1 9 7 5
- <sup>2</sup> First Reading, Hos 6:1-6
- <sup>3</sup> Catechism of St PiusX, 8 9 3 参照
- 4 □-マ4:18-25
- <sup>5</sup> ヨハネ・パウロ1世, Address, 2 0 September1978
- <sup>6</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, 『鍛』. 194
- 7マタイ9:9-13
- <sup>8</sup>聖テレジア, Life,6, 8
- <sup>9</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー,

『道』, 773

 10 ローマへの手紙 8・28

 11 十字架の聖ヨハネ, Poems,VI

 12 十字架の聖ヨハネ, Poems,VI

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-X-nichi-A/ (2025/12/13)